

小学6年1組 家庭科学習指導案

指導者 竹吉昭人

生活に役立つ物を考えたり作ったりする楽しさを実感しながら、製作する物の形や大きさ考えることを窓口として話し合ったり、計画を練ったりする活動を取り入れたことは、自分の思いに添った物に近づけることに有効であったか。

1 題材名 生活に役立つ物を手作りしよう

2 題材のねらい

生活に役立つ物を考えたり作ったりする楽しさを実感しながら、物の形や大きさを考えることを窓口話し合い、計画を立て、製作することで、自分の思いに添った物を手作りすることができる。

3 授業の構想

(1) 以下に示すふりかえりは5年生の時の手縫いによる小物の製作（児童A）、ミシン縫いによるふくろ作りの製作（児童B）を終えた時のものである。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・1回目の学校でやった事より、2回目の今のさいほうは、とっても計画通りにいきました。けっこう大きくなって、<u>小物入れより、大物入れみたいになってしまったけど、家族に役立ったらいいなと思いました。</u> 児童A・完成したら、<u>自分でもミシンを使えてうまくぬえるのだと思いました。</u>初めは1枚の大きな布が、どんどんちがう形になっていくのがとてもおもしろかったです。ナップザックの形になったときには、うまくできたと思いました。<u>このナップザックを大切に使っていきたいです。</u> 児童B |
|--|

これらの製作活動の題材を通して、子どもたちは、生活に役立つ物を考えたり作ったりする楽しさ味わってきた。物が完成したという達成感や、自分や家族のために生活に役立つものが作れたという充実感も同時に感じる事ができた。この製作活動に対する楽しさや達成感、充実感、布を用いた製作を通して、家族の一員として、日常生活に主体的に関わり、生活をよりよくしていこうとする態度を育む上で、子どもたちの原動力となる大切な感情である。よって、これからも小学校家庭科の学習活動の中で大切にしていきたいと考えている。一方で、子どもたちは完成したものを振り返った時に、目的に応じた形や大きさになっているか、縫い方ができているかという点において課題があると感じており、次に作る時は大きさや縫い方に気をつけていきたいという思いをもっている。製作活動の楽しさを感じながら、これらの課題を解決するための方法を学級全体で話し合いながら見だし、子どもたちが生活に役立てたいという思いをもってイメージし計画した物が製作できるようにしていきたい。そして、達成感や充実感を味わい、本題材での学習を生活にいかして行って欲しいと願っている。

(2) 本題材では、これまでの手縫いとミシン縫いによる製作活動をいかして生活に役立つ物を手作りしていく。小学校家庭科の製作活動のまとめの題材として位置付けている。子どもたちの日常生活の中で、布を用いた製作活動は頻繁に行われているとは言い難い。しかし、低学年のころに家族に作ってもらった手さげぶくろを今でも大切に使っていたり、これまでの学習を通して自分が作った物を家族に使ってもらったりすることで、手作りの温もりを感じている。また、実際に自分たちが手作りで製作してきたことで、既製品にはない家族や自分の思いに添った物が作れたりする手作りのよさを感じることができた。その手作りのよさを改めて感じ、日常生活に役立つものを考えたり、作る楽しさを実感したりする

ことでこれまで学んできた技能も活用されていく。布を用いた製作を通して、家族の一員として日常生活に主体的に関わり、生活をよりよくしようとする態度の育成という家庭科の究極のねらいに迫れる題材だと考える。

本学校園技術・家庭科では、豊かな学びの姿の一つに、「生活をより豊かにするために、習得した知識や技能を活用し、生活の中の課題に気づき自ら解決しようとする姿」がある。そこで、本題材においても、これまでの製作活動を通して気付いた課題に対して、仲間と共に話し合う中で解決方法を見いだしたり、試行錯誤を重ね解決方法を工夫したりする場面を大切にしていきながら、題材のねらいや、家庭科として願う子どもの姿に近付けていきたい。

- (3) 本題材を展開するに当たっては、これまでの日常生活を見つめ直したり、製作活動を振り返ったりしながら、手作りのよさや製作活動の楽しさを再確認していく。子どもたちのこれまでの経験や感じたことを価値付けることで、これからの製作活動や日常生活での活用の原動力としていきたい。そして、これまでの具体的な製作物を振り返ることで、物の形や大きさ、縫い方など課題も見いだすことができる。学びを子どもの実生活により強くつなげていくこと、これまでの生活の中で課題を見だし、解決していく本学校園技術・家庭科が目指す子どもの姿を大切にしていきたい。また、本題材では、子どもたちから見いだされるであろう課題の中でも、物の形や大きさを窓口にして課題解決に向けた話し合いを行う。作りたい物がある時に、その完成した時の形や大きさ、製作するための布や縫いしろの大きさが確実にイメージできることは物作りの基本であり、小学校生活の製作活動のまとめとして大切にしたいと考えている。

本時では、子どもたちがより自分の思いに添った物を作るためには、どのように物の形や大きさ設定していけばよいか話し合ったり、試行錯誤したりしていく。その中で、子どもたちが考えた様々な解決方法を価値付けながら、自分の思いに添った物に近付けるように物の大きさや形を窓口製作計画をより具体的にしていきたい。

4 展開計画（全9時間 本時2／9）

次	主な学習	時	具体的な学習・内容（◇印は、学び合い）
1	これまでの製作を振り返り、手作りする物を考えよう。	1 ② 3・4	<ul style="list-style-type: none"> 子どもや教師が家族や自分のために手作りした物を持ち寄り、製作した時の思いや、自分が手作りした物を使っている家族の思いを出し合うことで、手作りのよさを再確認しつつ、製作活動に向けた意欲を高める。 本題材を通して、どのような物を製作するか自分の思いを明らかにしていきながら考える。 ◇前時からの子どもの思いをもとに、これからの計画や製作に当たっての課題を見だし、物の形や大きさを窓口で自分の計画を練っていく。 ◇物の形や大きさから、製作に必要な布の量を決めたり、縫い方を考えたりしながら計画表を完成させる。
2	生活に役立つ物を手作りしよう。	5～8 9	<ul style="list-style-type: none"> 計画に沿って製作する。 ◇お互いの完成した物を見合いながら、手作りした物のよさや、物の形や大きさなど工夫した点など出し合い、これからの生活につなげていく。

5 本時の学習

(1) ねらい

自分の思いに添った物が製作できるように、物の形や大きさを決めるための長さを測る場所や、ゆとりや縫い代を含めた布の大きさを考えることができる。

(2) 展開

学習場面と子どもの取組 (◎は、学びをいかしている子どもの姿)	教師の支援と願い・評価
<p>1. 製作しようとしている物に対する思いや、その製作に向けた課題を出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 家のトースターにカバーがなくてほこりがよくたまっているの、ほこりを防ぐためにもそれを作りたい。 前回作ったポケットティッシュ入れは思ったより大きくなってしまったので、今回作る時にはきちんと測って作りたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 製作しようとしている物に対する子どもたちの思いを引き出し、高めることでこれからの活動の原動力としていく。 これまでの製作を振り返ったり、現段階で困っていることや悩んでいることを出し合ったりすることで、製作活動に向けた課題を全体で共通理解していく。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">自分の思いにそった物を作るために、形や大きさなどをイメージして計画をねろう</div>	
<p>2. 物の形や大きさを窓口に、計画を具体的にしていける方法を考える。</p> <p>◎トースターの縦と横と高さをきちんと測って、大きさを考えたい。</p> <p>◎ポケットティッシュ入れを作った時に、ゆとりをとりすぎて大きくなってしまったので、ちょうどよいゆりの大きさを考えて、全体の大きさを決めていきたい。</p> <p>3. 自分が製作したい物の大きさや必要な布の大きさを改めて考える。</p> <p>4. 本時を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 私は、これからトートバックを作ろうと思うけど、入れようと思っている参考書の大きさや厚みを改めて測って見たら、思っていたよりも厚かったので、厚みやゆとりを正確に測ることで、参考書がしっかり入るバックがつかれそうです。 	<ul style="list-style-type: none"> 入れたり、置いたりする物などをできるかぎり用意し、子どもたちが製作しようとしている物の大きさや、それを決めるために必要な大きさを測る場所など、具体的にイメージできるようにする。 製作する物の形や大きさを決める方法と、製作するために必要な布の大きさを決めるための方法を整理しながら板書し、話し合いを進める。 学級全体で話し合うことで、課題や解決方法を共有できるようにする。 <p>・対象の物が手元にない場合でも、計測場所や計測方法を考えながら、計画に必要な採寸の見通しをもてるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">— 評価の観点（生活を工夫し創造する能力） —</p> <p style="text-align: center;">長さを測る場所や、ゆとりや縫い代を含めた布の大きさを考えている。</p> <p style="text-align: center;">【評価方法 発言・ワークシート】</p> <p>支援</p> <p style="text-align: center;">具体的な対象物や、布に見立てた紙を用意することで、イメージをもてるようにする。</p> </div>

(3) 思考力・判断力・表現力の評価

評価基準	A	B	C
	製作する物の形や大きさを決めるために、長さを測る場所や、ゆとりや縫い代を含めた布の大きさを具体的に考えている。	製作する物の形や大きさを決めるために、長さを測る場所や、ゆとりや縫い代を含めた布の大きさを考えている。	製作する物の形や大きさを決めるために必要な採寸場所がイメージできず、形や大きさを決める際の根拠が曖昧である。